

何気ないことば

こんにちは、弥生3月となりました。もうすぐ春です。今回は「言葉と差別」です。

日常の会話の中で、ふとした発言で相手を怒らせてしまった経験はないですか？言葉は、人と人のコミュニケーションをとる上で、とても大切なアクションです。でも、もしその言葉でひそかに傷ついたり、嫌な思いをする人がいるのであれば使わない方が良いのではないのでしょうか？

コミュニケーションは、自分と他者（個人または複数人）との意志の伝達方法です。その方法が間違っているとしたら、人間関係を切ってしまうことにもなりかねないばかりか、時には相手の命をも奪ってしまうことにもつながりかねません。それは、近年頻発している「いじめ」による自殺にも関連してくると思います。「冗談のつもり」、「軽い気持ち」では済まされないことです。

これまで、たくさんの言葉が差別を招くとして変わってきました。例えば・・・

- スチュワーデス → キャビンアテンダント
- 保母 → 保育士
- 婦警 → 女性警官
- 婦人 → 女性
- (学校の) 小使いさん → 用務員・校務員さん
- インディアン → ネイティブ・アメリカン
- 外人 → 外国人

などがありますが、その背景にはジェンダーや職業差別につながるとして変わったものが多いです。言葉に秘められた差別性を知り、他者に嫌な思いをさせないように、何がいけないのか、何故いけないのかを知ることが大切です。ただ「使ってはいけない」ではなく、その本質を知った上で使わないようにすることが必要です。

一人ひとりの人間にはさまざまな違いがある。違いがあるからこそ、この世は楽しく、面白く、生きるに値するのですが、その違いのどれかを決定的なものとして人を落とすものに用いられる言葉は差別語になります。

現実の一つの言葉で「傷つけられた」「差別された」と感じる人がいる以上、そのような言葉を乱用することは避けなければいけないと思います。その言葉や表現が差別に苦しむ人たちを実際に傷つけているかどうか、その人たちの立場に立って自らよく考えてみるのが基本ではないのでしょうか。

(文：森本)



3月のお知らせ



講座名	日時
しあわせボディ	毎週月曜日 13:30~15:00
自力整体教室	毎週金曜日 13:30~15:00
将棋教室	毎週水曜日 13:00~16:30
健康教室	3月5日(木) 9:30~11:30
料理教室	3月24日(火) 9:30~
ハンドメイド	3月30日・31日(月・火) 10:00~16:30



地藏寺梅の花